

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

第13回ワークショップ会議録

日 時：平成24年11月17日（土） 10：00～12：00

場 所：鎌倉市 第3分庁舎講堂

参加者：公募市民：10名 関係団体：7名 計：17名 傍聴者：14名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤

研究室）

事務局：鎌倉市役所：市民活動部産業振興課

加藤課長、近田課長補佐、根本事務職員

（財）漁港漁場漁村技術研究所

浪川職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室

院生5名

プログラム

はじめに

① 報告書とりまとめにあたって

第1部

② ワークショップ報告書について

第2部

③ 今回のワークショップに参加してのご感想

終わりに

④ 事務局より

配布資料

第13回ワークショップ 次 第

平成24年度鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ報告書

～ワークショップからのメッセージ（素案）～

資料：事前に寄せられたご意見

はじめに

① 報告書とりまとめにあたって

「報告書とりまとめにあたって」について、事務局の産業振興課加藤課長から説明を行いました。

事務局：おはようございます。産業振興課の加藤でございます。第13回ということで、雨も降ってまいりましたけども、足元の悪いところお集まりいただきましてありがとうございます。今、司会の方から報告書のとりまとめにあたってということで、1週間ほど前に皆さんの方にワークショップ（以下「WS」という。）からのメッセージの素案を送らせていただきました。こちらの方につきましては、皆さんから意見をいただいて、前回WSでどういうまとめをするかということについて話し、それに沿ったまとめとなっております。1枚開いていただきまして目次がございます。今日は皆さんが一読していただいているということを前提に進めさせていただきますが、平成23年度の報告書を取りまとめた時に色々ご意見をいただいて、最初に、今回で言えばメッセージ、前回で言えば成果と主な意見を前に持ってきた方が良いだろうということで、最初に今年度のWSの概要を記載させていただいた後に、皆さんの方から発信をしていただくメッセージ三つについて記載をさせていただいております。その後、第4章といたしまして、7項目に分けまして、意見を分類整理をして編集いたしました。この文面は議事録から拾っていったのですが、話し言葉ということで、このWSの報告書をご覧になるのが、このWSに参加されていない一般市民の方ですとか、または市の関係者も含めてですが、初めて読まれるということを前提に、なるべく分かりやすいように、初めて読んだ人でも意味がわかるような形に事務局の方で編集をしたつもりです。ですので、発言をされた方のニュアンスと違うようなことがあればこの後言っていただければと思います。それから大変遅くなってしまったのですが、この報告書にWSの資料編ということで、この未定稿第8回から12回、本日13回も入れて、今年度開催いたしました議事録をすべて付けたいと思います。それは、ここでは主な意見とか要望ということで抜粋して出させていただいておりますが、より正確に内容を知りたいという方もいらっしゃると思いますので、議事録の方をそのまま付けたいと思っています。今日配布して、量も多いので、この場では中々議論できないと思いますが、これは後で、期限を決めさせていただいて、皆さんの方からご意見をいただければと思っています。それからこの素案にはまだ付けておりませんが、これまで配布した資料も併せてつけ

第13回ワークショップ議事録

て、今年度のまとめとさせていただくつもりです。23年度と24年度を通してどうなのかということで、23年度の成果品としては報告書に取りまとめしておりますので、それとこの24年度を併せてこのWSからの報告書なりメッセージ、という形になろうかと思っております。報告書の取りまとめにつきましては、以上でございます。

第1部

② 報告書とりまとめにあたって

「平成24年度鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ報告書～ワークショップからのメッセージ(素案)～」について、参加者より意見を頂きました。

F T :おはようございます。いよいよ最終回を迎えました。13回のうちほとんど、もしくは全てに参加された方もかなり多いです。このWSのためにご自身の貴重な時間を相当犠牲にされたのではないかと思います。ご協力感謝いたします。このWSの最終報告書をどのようにまとめるかについては色々な方々と話を進めてきた経緯により、このWSのメンバーの総意として書ける事と、それ以外の事、書き分けなきゃいけないということがありましたので、そこに注意して事務局が原案を作成した訳でございます。今日は既にお目通しいただいているとは思いますが、その原案に対して、内容やまとめ方について個別に意見など頂戴したいと思います。事前にいただいた意見については先ほど説明がありましたように、皆さんのお手元に文字化してございますので、この意見も参考にしながらご自身のご意見を書きだしていただきたいと思います。全員と申しますが、話しづらいこととか色々ございますでしょうから、1人1人伺いますけれど、パスするのも自由でございますのでその旨ご了承ください。皆さんのお手元に、メッセージについてデータのまとめ方について項目欄がございます。ご自身の意見を整理する上でも、事務局としていただいた意見を今後の報告書にどう盛り込むかということを考える上でも、このような、整理された方が便利だろうということで作りました。この項目にどうしても収まり切れないご意見もあるでしょうからその時はまたおっしゃっていただいて、ご自由にこの項目欄にメモを書き込んでいただければありがたく存じます。それから今日はどのように皆さんにご意見をお聞きすれば良いか、少し悩んだのですができるだけ多くの方々から声をいただきたいとのことですので、この表に書き込むだけでも結構ですし、個別にご意見を伺いますのでその時に開陳されても結構でございます。よろしく願いいたします。

この後一通り終わりましたらこの報告書は今後どうなるのか、どのよう

第13回ワークショップ議事録

に編集されていくのか、編集された結果どのように、誰に手渡されていくのか、について意見交換をして市としての当面の目標、あるいは考え方について伺うということに時間を取りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。まず前半は内容・まとめ方についての個別意見を頂戴したいと、こういう風に思っておりますよろしいでしょうか。

それでは伺ってまいります、ちょっと今日ご都合で途中退出しなければならぬそちらの方からお願いいたします。

参加者：中座しなければいけないので、最初に発言させていただきます。素案に関しては良くまとめていただいたという印象です。WSからのメッセージというのは何らかの行動を規制する、あるいは決定するというような性格のものではないので、色々な意見が出たということ、特に平成24年度に関しては漁港を造るか造らないかというところから始まって、水産業一般、漁業と市民の関わり方、というようなどころまで色々な意見が出たという、そういうことが反映されているということで、私はとても良かったのではないかと考えています。修正案も拝見したのですが、非常に細かい文言の問題であるとか、例えばこのWSからのメッセージが何らかの担保として使われるのではないかというような危機感をお持ちの方は当然こういう修正をされてくるのだと思うのですが、それはそれでよろしいのではないかと考えています。何よりも2年間かけてやってきたことの成果が、単なる漁港に賛成する反対するということを超えて、もっと広範な、産業振興とか、漁業のこれからというようなことに広がったことが最大の成果である、ということがこの素案の中に盛り込まれているという印象でしたので、私はこの素案に賛成いたします。

一つ、提案があります。2年間に亘ってやってきたこのWSを今回終わる訳ですが、このまま終わってしまっても良いのだろうか、色々な問題提起がされたことをこの後どうやって市民や我々「漁業者」で統一、具体化していくのか、ということに関して私は何らかの形で継続的なこうした会合が必要ではないかと思いました。先日鎌倉女学院中学校の学生さんが8人ほどみえまして、職業体験をするということで色々話し合ったのですが、その中の1人の女子生徒が、こう言っていました。「景気対策とか不景気だとか色々なことが言われているけれども、今の世の中を見ると、不必要な物をあまりにも多く供給しすぎているのではないか、何か人間の生活に必要なことまで色々なことを通じて欲望を喚起して供給しているというこの世の中に何か疑問を感じる」というふうにおっしゃっていました。それに引き換え、人間の生活にとって一

第13回ワークショップ議事録

番大切な例えば第1次産業とかそういうことがおざなりにされているのではないかとということで職業体験のテーマとして漁業を選んだというふうにおっしゃっていました。中学1年生の女の子です。中学1年生の女の子でさえ、今こういう問題意識を持っているということを考えると、やはりこうした第1次産業に対する様々な意見の交換とか、ビジョンの構築とか、そういうことが私はとても必要なことだ、漁業者にとっても必要な事だし、市民にとっても必要だ、という印象でした。そんなこともあり、私はこのWSをどうやって発展的に解消して、次の何らかのフォーラムのようなものを起ち上げていく必要があるのではないかとこのように感じましたので、私からの個人的な提案として提案させていただきます。実は、その鎌倉女学院の職業体験の少し前に国大の附属中学の男の子たちも漁業体験をしに来ました。実は今日その子供たちが学習成果の発表を中学でやりますので、ぜひともそれに参加したくて私は中座することになりますが、お許してください。以上です。24年度に関しての半年間、皆さん色々な意見を頂戴し、本当にためになりました、ありがとうございました。

参加者：前の方が大変素晴らしいまとめをしてくださったので、それ以外にどんなことがあるかと考えながら今お聞きしたのですが、私自身もこういう漁業問題についてこのWSに出る前は詳しいことは知らないというか、海岸を散歩する時に漁業者の皆さんの様子を見て大変だろうなどとはいつも思いながら見ていました。ただ漁港問題につきましても環境破壊ということも大きい問題として、私はベーシックには反対の立場でおりましたが、これは単に反対ということを超えて、漁業の問題だけではなくて、この鎌倉の海をどうやって守っていくか、また守っていくことも中々大変だなという印象を強く持ちました。それからこのWSをしている間に、仲間から色々データなどをもらって、周りの茅ヶ崎なり、葉山なりが、やはり同じ問題を抱えて、積極的に市民が勉強しあって、あるいはどうやって守っていくかということに真剣に取り組んでおられる姿を見まして、まだまだ我々は遅れていたなど、これからその志のある皆で行政だけに任せるのではなくて市民もこの海を、自然環境を守っていくために何ができるのか、何が必要なのか、その辺について継続的に話し合っこの海を守っていききたいということ、今まで以上に強く感じました。そういう意味で私もなにかお手伝いできることがあったら、やりたいなど、そういう印象を持てたことも私にとってはプラスだったと思います。

第13回ワークショップ議事録

F T :ありがとうございます。何となく、プログラムの後半にある今回のWSに参加するご感想の方に話移ってきてしまっているみたいですが、よろしいですか。ありがとうございます。

参加者 :長い間、やっとこれで最後になったという感じで、ほっとしているのが、また感想みたいなこと言ってしまっていますが、これだけの資料をまとめられた事務局の方、大変ご苦労様でした。報告書は大変よくまとまっていますので、私はそれで十分だと思います。

参加者 :足かけ2年間、皆様ありがとうございました。この素案に関しましては、私は特に異存はございません。細かい訂正点があるのですが、細かいところなので、気にし出したらキリが無いので、これで自分は異存ありません。

参加者 :感想っぽいやつは、何十年振りかに小学校の社会科の勉強会が続いたという印象です。感想は、ただの社会科の勉強会が続いたということですね。技術的には今、ファシリテータ（以下「F T」という。）がおっしゃるように取りまとめのペーパーの原案を用意されている、その先に何を期待されているのですか。逆に私は、このWSという形で皆の意見を聞こうとおっしゃった、根っこのところの姿勢をね、事務局にご質問したい。

F T :その話はこの後で。

参加者 :わかりました。じゃあ以上です。

参加者 :ぱっと見た感じで、これらの意見が反映されていれば良いのではないかなとは思っていますが、今回は前回の23年度とは別ですか、それともそれを含めた、という形になるのですか。

F T :今回のまとめ方ということですね？事務局、どうですか。

事務局 :さっき少し話したのですが、これは24年度のとりまとめですが、WS全体としては23年度の報告書と今回の報告書、これをセットでこの鎌倉地域の漁業、漁港に関するWSの成果というふうに考えています。

参加者 :出し方としては、23年度に作った報告書と別冊でもう1冊こっちの報告書があるのですか。

事務局 :23、24年度版と通しでの報告という形です。

参加者 :またこの間いただいたのは別の物ができるのですか。

事務局 :これに資料編を付けて、24年度の成果となります。このWS全体で見れば23年度に細かい話がされていますが、一般の方に「このWSの成果はなんですか」となれば、23年度と24年度の報告書が一緒になって成果ということになります。

第13回ワークショップ議事録

参加者：そうするとまとめられているかどうかですが、内容的には23年度はそのままいじらずにそこにあって、今年度の報告書が付け足されるということなのですね。

事務局：その通りです。

参加者：じゃ別に今年度の報告書が最終結論ではなくて、23年度があって24年度もある、という考え方ですか。

事務局：その通りです。

参加者：わかりました。それであれば良いのではないかと思います。

参加者：私としてはこれで良いかなと思っているのですが、ただ、WSをやっている間に色々な課題が出てきて、もうちょっと何かの形で話し合いとかそういうものがあったら良いのではないかと、そういうふうに思いました。これはこれでよくまとまっているみたいな感じがするので良いと思います。

参加者：私もこの素案は良くできていると思います。これで良いと思います。

参加者：内容は私も特に良いと思うのですが、これを、例えば全然関係ないうちの隣のおばさんとかがどうやったら見られるのでしょうか。

事務局：皆さんに了解いただいた後、ホームページ（以下「HP」という。）の方には公開をいたします。後は、うちの職場にこの報告書自体はありますので、必要だという方にはお配りすることは可能かと思います。基本的にはHPで公開しようと思っています。

参加者：HPで公開されるということは、グリーンネット、いつも皆さん拝見していると思いますが、要するに中々見にくいということだと思っておりますね。こういう報告書までたどりついて見られる人は本当に興味のある人で、そういう情報のリテラシーの無い人は中々そこまで行かないと思うので、私としてはこういう皆さんのWSの成果が出ましたよというのを報告するイベントをやってほしいと思います。報告会でも良いし、事務局に何かのイベントの折と一緒にパネルディスカッションみたいなものに入ってもらうとか、報告してもらうとか。もう少し積極的に市民にこの成果を披露する場を設けていただきたいと思います。

参加者：先ほど23年度との扱いはどうなのかという話があって、やはり流れとしては継続してきているので23年度で話し合われたことは今回話し合われていないということがあるかと思うので、両方セットで出していただけるとのことなら必ずそうしていただきたいと思います。後は色々配りされて作られているなと思います。これを受けて市がどうするか、この後ですね、そちらの方に興味があります。あとそれから皆さんのお

第13回ワークショップ議事録

話、これをどこかで報告する機会、市民に対して報告する機会というのは良いアイデアかなと思います。またその時に市としてこれを受けてどういうことをするのかという話ができたら良いのではないかと思います。

参加者：さっきの最初の方のお話にあったように、こういう色々なものがあふれている世の中で、第1次産業のことについて考えようと若い人たち、中学1年生くらいの人たちがそういうふうな考えを持っているということ、大人たちはよく心に留めておくことは必要だなと思いました。

この報告書に関しては、羅列してあるだけのようないい気はしないでもないですが、とても中立的な立場で書かれていて良かったと思っています。ただ今後についてフォーラムをしたら良いのではないかと、最初の方のお話にもあったように、同じようにと思います。その中で、漁業について考えるということは、漁業者たちが当事者であって本当はそういうビジョンが生まれてきて、周りの人たちがそれをフォローしていくというのが本当はそういう形だと思うのです。ただ色々な、皆会社の経験とかを活かしてそういうふうに意見を言ったり、自分の意見を構築したりする、経験を活かしてやっていることなので周りがフォローして一緒に考えて良い形になっていけば良いと思います。一番大事なのは当事者の漁業者さんたちの中で、更に若い人たちがもっと声をあげて、若い人たちの意見を取り入れていく漁業者さんたちになっていっていただければ一番望ましいと思います。何十年後かわからないが、漁港なのか何かが完成した時にでも、一番主で使う層の方たち、今の若手の人たちが主で、将来自分たちが今からずっともう年を取ってやめる時まで、とても良い施設と思って使えるものを、今の、ごめんなさい今の年上の方たちのことではなくて、今の若い人たちが自分たちが本当にそれが良いかと思うことを伝えていって作っていかねばいけないので、若手の漁業者さんたちに本当は一番声をあげてもらいたくて、それでそれを市民がフォローしていく形を作って最初の方がおっしゃたように、フォーラムなり、漁業のビジョンなりを考えていくということを私はとても望みます。

参加者：24年度分の取りまとめをどうしますか、という点では私はこれでよろしいかと思っています。今日になって微調整という失礼かもしれませんが意見が出されて、見れば確かにこんな話もあったかなと思うので、入れればぜひ反映させていただきたいなと思いますが、よろしいかと思っています。先ほどの話ではないですが、どちらかというとこれはこれとして、この先どうするの、というか、これについてどう活用するのか、そちらの方が段々興味のポイントになってきたので、時間があるのであれば、

第13回ワークショップ議事録

今日もそんな話をさせていただければと思っているので、また後ほどにします。

参加者：たくさんあるのですが、WSについては、まとめについては私もこれで納得できます。ただ、これを機会に海のこととか、例えば漁港を造るなり、防災対策するなり、堤防造るなり、といった時に、周りで起こっていることを、既に30年、50年前に周りがやってきて今、後悔していることを鎌倉がなぜ同じことをするのだろうかというふうに見ると見えるので、もっと色々なことを考慮して対策を考える。対策を考える時には色々な主体性の人たちが共存している湾の中なので、お互いに誤解が生まれたり対立が生まれたりが無いような、鎌倉の地域力とかそういうものを活かして先ほど最初の方が言っていたフォーラムとかもそうなのですが、もっと私たちは勉強しないといけないのではないかと、せっかく色々な情報があるのに活かしていないのではないかとというのがすごくあったので、漁業者さんも市民の方も海レクの人たちも一緒に何か考えられる、鎌倉の美しい砂や海岸線を守れる方法を考えながら、対策したり、自分たちの暮らしが良くなったりする方向に持っていけるきっかけになってくれたらなと思っています。あまりにも鎌倉が閉鎖的で皆さん山やお寺のことばかりに一所懸命で海的事情は県に任せきりで、実際何が周りで起こっているかということをも自分も含め、知らなかったのだなというのがあって、ほんの一例なのですが、今日用意してきたものもありますので、すみませんが、今後の参考に使ってください。

F T：後ほど配布してください。

参加者：私は周辺の住民で職業はサラリーマンで、何回かWSの中で住んでいる方の本音とは何なのかと、要するに自分の家の前に漁港ができるということが嫌なのではないか、それだけじゃないか、というご意見もいただいて、自分なりに自分の本音とは何だろうかというのをすごく考えました。実は私は坂ノ下に住み、初めに来た時は、あそこの広大な空き地、市民プールの周り、あの辺など再開発できないかなと、サンフランシスコなんか行くとフィッシャーマンズワーフみたいなものがあって、そういうものができたら本当は良いのではないかな、とそんなことを考えているところがあり、そのような色々なことが良く分からない状況でこのWSに参加したのですが、自分の本音は何だろうかと思った時に、私には小2の娘がいます。ですから自分の本音というのは、自分の子供、あるいは子供たちの世代に良いものを残してあげたい。できるだけ「負」は残したくない。負の遺産を残さずに、良いものを残したいというのが

自分の本音なのだということをおこのWSで気づきました。それで、良いものって何だと考えると、お配りした、前回出席できなかったのも、私の意見がまとめてあるのですが、良いものというのは、皆さん漁業者の方が続けてこられたような漁、つまり浜に漁があるという文化であったり、新鮮な魚が食べられるというメリットだったりということで、そういうものは残していきたいです。

負の物というのは、税金の話がありましたが、何十億という負債を子供たちの世代に残したくないです。それから再生不能になる自然は残したくない。本題に入りますと、私がもしこのメッセージの中にもう一つ加味していただきたいことは、ソフトウェアの活動というのでしょうか、今回も見学会があったりとか、あるいは浜売りの話があったりしましたが、そういうソフトの活動をもっともっと、特に漁業者の方主体で市民もそれをサポートするような形で、進められるというのが、その旨が記載されると有難いなと思っております。というのは、漁業者の方もおそらく後継者の問題は非常に困っているはずで、これからの世代にどのように引き継いでいくか困っているはずです。ですから、さっきの中学校の話もありましたが、子供たちの世代に漁業の素晴らしさであったり、新鮮な魚が食べられる素晴らしさであったり、そういうものをどんどん伝えていく、そういう活動をするのが、実はその子供たちの世代になった時に漁業者さんを助けるためにこういう活動やこういうインフラが必要だねという話になっていくと思うんですね。その点はぜひ、今後の活動にも関わりがあるので、明記していただくと有難いなと思います。

それからもう一点、これは今後の話になるのかもしれませんが、お配りした資料の中に平塚の事例があります。これ読んでいただくと非常に参考になる点がありまして、要は造ってみてからそこが結構危険な場所とかあまり使えない場所、波が高くて使えない場所であることがわかったり、あるいはさっき言った施設、レジャー施設だったりフィッシャーマンズワーク的なものを造ろうとしたら、色々な規制があってそういうハードが造れなかったりということがすごく事細かに書いてあります。これは非常に大事なポイントだと思っております。何か造るにしても造らないにしても、ここに造るからそれありきではなくて、アセスメントや計画というものを相当多角的に検討しないと、造り始めてから困った、実は造れないとか、造ってから全然使われないという状況が生まれるのだと、それが本当に近くの都市で起こっているのだということは、ぜひこれから計画を進めるにあたって注意しなければいけない。何回もこの場でも費用対効果やアセス

第13回ワークショップ議事録

メントの話が出て、それは造る場所が決まらないとできないのだという話がありましたが、実際は逆なはずで、色々な場所で造った時の自然への影響ですとか、その辺りの法規制をちゃんと調べた上で、ここだったら大丈夫という所を選ばないと非常に後で痛い目に遭うんだなということが周りの事例からわかるなと思ひまして、資料としてお配りしました。

F T : まずメッセージについてのご発言ありましたが、これは後ほど皆さんで協議してください。

F T 補 : ファシリテータ補佐の橋本（以下「F T 補」という。）です。今二つの資料を一緒に配ってしまったので、資料の解説をしますと、赤い文字の「鎌倉湾の自然の砂浜を守ってください」というのが前の前に発言された方からです。「現地調査後に寄せられたご意見」というのが前に発言された方からの資料です。

参加者 : 素案については、2年間に亘りこのようにまとめられていて、私は良いと思います。この場に於いて市民と漁業者と、海浜の利用者がこのように色々意見を出し合って、WSという場を、私は初めてこういう場を経験したのですが、今日で最終ということで、今後またこのWSに代わるようなものがあれば、また私は参加したいと思います。

参加者 : この素案に対しての話題ですが、全部読み切れなかったのですが、見ていて、漁港の必要性をうたってくれていて、それに対しての反対者の意見も取り入れており、素案は別にこれで良いのではないかと思います。と思いますが、「配布資料 事前に寄せられたご意見」の中で現在の坂ノ下の侵食という欄があります。これは漁港ができると海岸の環境が変わるようなことが書いてあるのですが、できる前と、消波ブロックをあそこに入れた時と入れない前を、自分たちで見えています。それを見た結果というのは。これを書いた人はそういうようなことで侵食されるようなことを書いたのかもしれないが、あの消波ブロックを入れた時点で134号線に波が上がりなくなりました。先輩から聞くと、その消波ブロックが無い時は、伊勢湾台風、室戸台風という時には134号の、以前は学生会館だった花月園の中の玄関の中まで波が上がりました。それと今のローソンがある所、あそこの前まで波が上がりました。ローソンの人は越してきた方なので石垣を壊したのですが、地元の方は残してあります。なぜその土地に昔から居る人は石垣を壊さないかというと、それは消波ブロックができてから波が上がりなくなったということを知らないからです。侵食のことばかりを言って、生命が大事だということを言わずに、このメッセージの中に追加するということなのですが、これはどうかと思

第13回ワークショップ議事録

います。そう思ってちょっと意見を言わせていただきました。

参加者：まず何をやらなければいけないかといって、スタートをした時に我々が見せられたのは、第1回と第2回に色刷りで目的を書いたものをいただいたはずですが。それが目指す道で、集まった人はそれぞれによって質も違うでしょうし、考え方も違うでしょう。今、市役所の3階の行政資料コーナーに行くと、今までのこういうプロジェクトのレポートが全部あります。鎌倉漁港対策協議会（以下「漁対協」という。）のレポートもあります。ですからこれを市民一般に、さっきから見られないのかという話がありましたが、パソコンというようなものでなくて、書いたものが資料室に行くと手に入ります。手に取ってみて、というようにして公開するという事は、この資料をどう扱うかということについての私の考えです。それでこれはどういう目的でスタートしたのかというと、第1回と第2回にルールがちゃんと配られている。これが我々の進んでいかなければいけなかった道なわけですから、それに従って市は予算を取り、我々は来た訳です。ですからこの素案に問題があるとかじゃないと言うことです。

それから私は委員の名前をすべてオープンにすることを言います。他の委員会もみなそうでした。こういう人たちが集まってこういう意見ができているのであると。良いじゃないですか、オープンにして。パソコンで見るというのもオープンですが同じことです。ですから私は最初の目的に従って、そのようにしていただきたい。資料は行政資料コーナー、市役所の3階にあります、漁対協のも皆揃っています。私がずっとやっておりました市民百人会議、あるいはマスタープラン、交通マスタープラン等、皆あります。誰が出てどうしたかというのはF Tの名前も含めて皆オープンにされています。その人たちがこういう目的でこんな意見が出たのだよ、ということはとても大事なことで、それをやっていただきたいです。ですから、いちいちこんな中身について、これは年寄りの意見だ、これは若い人の意見だ、というのはどうでも良いので、こういう人が集まってこういう意見ができた、それでこういう所にお金を使ってきたという報告をきちっと行政がすると、これを望みます。その次のステップについてはまた考えれば良いことです。今までのことに関して、これは悪い、これは1行下がっているとか上がっているとかということはありません。我々のやらなければいけないこと、できることは決まっているはずですから。というのは、海は変えられないと。どこかよその海へ行って鎌倉漁港を造るのか、あり得ません。今おかれている所の自

然の災害を含めた中でやらなければいけないと決まっている訳です。条件は与えられている訳です。その中でどう問うていくかということの次のステップでやっていきたい。その第1ステップとしてはよくできていると、自分は思います。

F T : 一通り意見を頂戴しましたが、個別の意見として掲載するということは別に、総意としてメッセージを発するということに二つほど、ご注文がありました。

一つは、漁業者も含めて浜の活動のソフトウェアを充実させて、市民がそこに入りやすいような雰囲気を作ってほしい。そういうニュアンスの、主旨の、文言を入れてほしい。例えば、これはメッセージの項目からすると、1番の所に付け加わるのでしょうか。

それからもう一つは、恐らく2番に関わるのですが、侵食傾向一辺倒ということではなくて、構造物の造り方によってはその侵食傾向が治まったり、波が上がらなくなったりするということを注記してほしい、というご注文でした。恐らく2番だと思のですが、この文言をメッセージの中にお入れしてよろしいかどうか、どうでしょうか。ご異議のある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。なければこれを盛り込んで素案を修正したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

では次にこのWSの今後を含めてですね、報告書をどうするかについて議論をしたいと思います。これについては先ほどから少しコメントがございましたので、またこのステージで順次ご発言いただきたいのですが、いかがでしょうか。話したいこと、あるいはご注文ございましたらあらためてお話しください。この報告書の取り扱いの仕方、このWSがこれで終わるかどうかなどですね…この報告書は修正されますが、この後どのような形で、はいどうぞ。

参加者 : このWSを終わるかどうかというのは、今までの鎌倉を見て、歴史で良いかどうかは別にして、時の流れによって、漁対協の一次と二次ではメンバーが全部変わっています。若い人がやれば、その時の若い人たちが何十年経って、レポートが残っていますが、どういうものだったかという、その当時の年寄りの意見とあまり変わっていないということもある訳です。歴史が証明する訳ですから、今ここで年が若いなら若い、年寄りとは年寄りという議論はつまらない議論ですから、市民という資格です。ですから私はどういうふうにするかということに関しては、メンバーは刷新する、変える、ということをお勧めします。同じ人間が集まってやっても同じ意見です。違う視野の人を持ってくる。共通して残って

第13回ワークショップ議事録

いただくのは漁業関係、これは当事者ですから。それから市になりますね。それが今、F Tが言われた、今後どうするのだろうかということに関しては、続けるにしても同じメンバーで同じようなところで続けるということよりもメンバーを一新すること。他の人の意見も出ます。それ見れば良いじゃないですか。

F T : このWSはこれで終わる訳ですが、先ほど最初の方から、これは終わるが、今後も何らかのこういう議論の場というのは継続的に続けていくようなそういう環境作りが必要ではないかというお話は、他の方からも出ていました。それについては今、同じメンバーでなくて、メンバーを変えて個別に議論していくべきではないかと、こういうお話でした。

参加者 : これからのことをちょっと考えて事務局にご質問したい。先ほどあちらがおっしゃったように、これでどうなってしまうのかが、私は一番心配しています。私も前、自分の関係では鎌倉市と嫌というほど付き合っています、行政当局とです。そして市当局の対応の過不足も非常に苛立たしく思ったこともありましたので、私は別の角度から手を突っ込んでいます。そこで産業振興課に逆にご質問したい。所属されている組織は産業振興というセクションですから、産業を衰退するのを助長するのがお仕事とは思いません。やはりバランスよく継続していくことだと思うのですね。それでこの報告書は、どことどこで議論して、産業振興という命題に沿った道筋を辿っていかうとされているのか。私は個別的には上級職のこの現状に対する落としどころみたいなことと聞いています。ですから私は、文字で提案したかどうか覚えていませんが、経営企画部とか政策創造担当とか、それから市長、副市長等で、そしてそれに関連する議会など、皆さん出て来ていただいて、私どもの疑問に答えていただきたい。今あちらがおっしゃったことも、年月ばかり掛って同じことの繰り返し、私は交通問題でも30回ほど出た会もありますし、30回も出た方が更に遡ると十何年間出ているという話もある訳ですね。ですからその轍はもう踏まない方がよろしいと思っているので、行政的にこれからどういうふうに進めていかれるのか、本音があるならば、他のセクションがない所ですからどうぞ存分にお聞かせいただきたいと、こう思います。今後のことはむしろ、一番気になりますね。

F T : 産業振興課の本業としての舵取りをこのWSを受けてどのようにされるか、明確にしてほしいということですか。

事務局 : 今の方のお考えになっているのは多分、すごく壮大な計画なのかなと、以前お話は聞いたことがあるのですが、私はそこまで力量ありませんの

第13回ワークショップ議事録

で、庁内をどこまでまとめられるかはまだちょっとイメージできませんが、このWSはそもそも漁港問題について話し合っていたということから、今回メッセージの中でもありましたが、市、または漁業協同組合（以下「漁協」という。）に水産ビジョンが無いというご指摘をいただいております。私ども産業振興課、また市民活動部はこの13回、皆さんにご協力をいただいてやった中で、段々皆さんの意識も変わってきたと思いますが、私どもの目線もちょっと変わりつつあります。そういう意味ではメッセージの一番上にある鎌倉地域の水産業の将来ビジョンですが、これは前々から産業振興課として、水産業の計画というようにしてしまうと仰々しくなって中々実効性がないのですが、こうやったら良いという、そういった基本的な、具体的な行動計画みたいなものはありません。これはぜひ作らなくてはいけないということで考えていた時に、このWSをやるという話が出てきました。漁港の話は置いておくと、本来我々がやるべきことというのは、水産業の振興です。それに対しての漁業者さんがどうなれば良いのかというのを第一に考えるのですが、それを取り巻く色々な方がこれだけ色々漁業者の事業体なり、起ち上げるなら協力したいというようなお話も合って、当然それは水産業の活性化になることですし、地域の活性化になることから、私どももそれに積極的に加わっていきたいです。主体は漁業者なのか、行政なのか。行政が主体になると進むものも中々進まないということもあるかもしれませんが、第一義的には水産業の振興策をどうやっていくかということも模索していきたいです。または、近いうちにそういった会でも起ち上げられたら良いなというふうに思っているところです。他のもっと経営企画課だとか政策創造担当だとかというところまでは今、そういう話までは具体的にしていないのでお話しはできないのですが、段々広がっていけば、当然そういう所にもどうなのだと、というようなお話ができるかなとは思いますが、今、具体的には申し上げられません。そんな状況でございます。

参加者：ちょっと先ほどの、私は別に若い人だけでフォーラムをやって、というつもりは全くなくて、もちろん市民全体の、フォーラムが続いていくのはもちろん賛成ですし、ただそのメンバーも入れ替えるという先ほどの意見にも賛成です。ただ、誤解されては困るのは、そういうものの中に、年配の方の意見を聞かないということではなくて、あくまでも先ほど申し上げたのは、当事者の漁業者さんたちの中の若い人たちといった意味なので、そういう全体で行政と絡んでフォーラムなりなんなりしていく

第13回ワークショップ議事録

のに、上の方の世代を拒むことを言ったつもりは全くありませんので誤解の無いようにお願いします。その辺はむしろ参加していただきたいと思っています。あくまでも当事者の漁業者さんの中の若い人たちに声を出してほしいということです。誤解無きようにお願いします。

参加者：加藤さんのおっしゃった話について、ちょっと私の懸念を言いたいのですが、今課長のお話を聞いていると、産業振興課として漁業の推進ということで、その範疇を産業振興にしか絞れないというか、タッチできないというような発言があったのですが、一般市民の私からすると、漁業問題、観光問題、あるいは今後の世界遺産との関連とか、色々幅広いことを加味して議論しないと、個別な話をしてもまた別な所から別な規制が出てくる、あるいは意見が出てくるということで、縦割り行政の典型のような話はないようにして、もうちょっと断続的に、市の中で統合的に、縦割りじゃなくて横も連携して、もっと意見を出し合って話を進めていただきたいなと思います。

事務局：産業振興課中心の話みたいに聞こえてしまったら申し訳ありません。メッセージの中で、この漁業というのも観光資源の一つとして皆さんに位置づけしてをいただいているので、当然、漁業だけで活性化してくるとは思わないので、鎌倉というブランド力を活かして水産業を振興していくというのは当然考えなくてはいけないと思いますので、それは皆さんがおっしゃったように使えるものは何でも使って、というふうに考えております。

参加者：今の流れについて、私の経験をお話ししますと、私は「明日の鎌倉をつくる市民百人会議」で部会長を務めてこれを成立させ、議会までもっていった当事者ですが、最初の担当課は市民活動部の中の産業振興課でしたが、それで産業振興で我々がプランを作った後、これを議会に持って行ってプランに残したいということで経営企画課に移ったんです。この間の紙を注意深く読んでいただければ、なぜ設立根拠がそうなったかという所に会議設置要綱というのがありまして、課長があの時はいたかどうか知りませんが、産業振興課が主管の課で、それでプランを立ち上げました。そしてその次もっていったのが、それを、議会を通して予算措置をして総合計画の次期基本計画の素案に入れる、そのために何をしたかということ、市にそれを申し出て委員会設置要綱に従ったプロセスを経て市の中で議会に出すために実に何十回というプロセスでやっています。本当にすごい会議でした。これは経営企画課を中心にして、そのリーダーだったのが経営企画部長、後の副市長です。ですから産業振興課は確

第13回ワークショップ議事録

かに産業を振興する課ですが、私が心配していないのはこれを皆さんの意見が出て、この次の皆さんのそういうふうな意見であるというのであれば、それを委員会設置要綱で経営企画に持って行って全庁的な意見とする。経営企画課にもっていくと市の全庁的な意見となるんですよ。そして副市長がリーダーの全部入った会議に掛けるのです。そこまで持っていけば、今は産業振興だが、前の方が知りたがって心配しておられることは自然と無くなっていきます。ということで、産業振興が基本で、今、起ち上げて今やっていますが、第1次産業というのは第6次産業までやって良いと内閣府の今年の10月25日に出来た訳です、案が。それはここにおられる人が詳しいのですが。ですから第1次産業の漁業者、農業者は、お店を作って流通、それから加工までも含んだものをやろうとしている時代がやってきました。ですからある時点で、それが市のプランになるというか、これはプランとしてプロセスを持っていく、プロセスを経れば良いのです。そのためにはこういうことを一次で出しましたと、二次の意見でこう出ましたと、これはもう市の意見にしてみらいたいのである、というふうに持っていけば、今まで私がマスタープランと百人会議、2回そのプロセスで、提案で入っていますから、策定できることに、それは実例がありますから大丈夫だと思います。いかにやるかということです。

参加者：今後のこういう場とか、報告書の取り扱いについて、二つほど意見があって、おっしゃるように市の中でどのように統合的に扱うかという話もあると思うのですが、私はどちらかというところ、ミクロというか、市民感覚の方向から言いますと、二つあります。

一つは、先ほど意見が出たように、こういう報告書が市民の目に届くというのはまず無いと思います。例えどこか、資料センターみたいな所に設置しても、多分皆さん見に来ないですし、HPに設置しても見に来ない、それから報告会をやるというのはすごく良いことなのですが、非常に限られた人しか来ないはずなんです。それで何回か言っていますが、例えばフェイスブックですとかツイッターですとか色々なソーシャルメディアは一瞬のうちに、こういう場でこういう議論があって「こういう意見とこういう意見があったとか、皆さんどう考えますか」みたいなことをすごく多くの人に流せます。しかもお金がそんなに掛からないです。そうしたソーシャルメディアを使った告知というのも市役所の方で、あるいは漁業者の方で、あるいは我々自身ももっと考えても良いのではないのかなというのが1点です。

第13回ワークショップ議事録

もう1点が、さっきソフトウェアの活動の重要性という話をしましたが、例えばうちの近隣で、漁協の方と、恐らくどこかの老人ホームの方が、協力してイワシのつみれ汁などを配ったりする会などをやられていたと思います。ああいうのはすごく良いと思います。その場でたぶん漁業者の方がこういうふうにしてこの魚獲ったのだよ、と説明をしていたのではないかと思うのですが、まさにああいう活動を地道にたくさん続けていくと、市民の方から、この魚を守りたいとか、食べたいとか、という話もあります。端的に、うちの娘に漁港がうちの前にできるかもしれないのだよと話す。「じゃあ津波が来たら造ったのが壊れちゃって造らなきゃ良かったねという話になっちゃうね」とすごく単純にそういうことを言うのです。そういうことに対して、ちゃんと、いやこういう意味で漁港は必要なのだとか、それがあからお魚食べられるんだとか、津波の対策はこうすると良いかもしれないとか、そういう話を小学生にでもしてあげると、多分ちゃんと理解すると思います。ですから先ほどソフトウェアの話をした繋がりと言うと、こういう場でただ大人たちが議論するだけだと、おっしゃるように、また同じ話が何度も蒸し返しになると思います。小学生には安全性とか、食文化の大切さ、それから先ほどの中学生の話がありましたが、職業体験的なもの、高校生、大学生になったらもう少し、ビジネス的なトータルの流通の側面、そういったものを複層的に学んだり、体験するような、そういうトータルソフトウェアの活動体系が、きちんとこれから議論されていくなり、実践されていくと、相当、3年、5年で違う話になっているはず。それをやらずにこういう場で集まって、大人たちだけがハード中心に造るか造らないかの話をしても、多分延々に同じ議論の繰り返しになるので、せっかくこの2年でこれだけ議論したのですから、ここを分岐点にソフトの活動と、若い人たちを巻き込んだ体系的なコーディネーションみたいなものをきちんと考える、そういう場であれば継続してこういう集まりというのは意味があると思いますし、それをやらない限りは、多分何回でも同じようになってしまうので、今後考えていく時に、そこについては市役所の方も漁業者の方も真剣に考えていただくと良いと思いますし、そういうトータルなコーディネーションができる中で、色々なイベントや活動があるのだったら喜んで協力したいなと思います。

F T : 何人かの方々からですね、このWSのアウトプット、公開の仕方について様々な提案がありました。そのことについて、追加で、例えばこうしたらどうかといったアドバイスはございませんか。そもそも皆さん方の

第13回ワークショップ議事録

意見の中には、この場で議論しなければ分からなかったことが大分わかって、非常に良かったという、こういう感触を市民皆に持ってもらいたいということだと思うのです。それで、HPで公開しても見られる人は限られているし、イベントをやっても来る人は限られているかもしれないから、もっと広く知らせる方法と、イベント等を組み合わせるとか、色々方法があると思います。そんなことがありうると思いますが、ここで、こんなのはどうだとか、お答えあればうかがいたいのですが、いかがでしょうか。

参加者：皆さんのおっしゃっていることはことごとく正解です。ただし、17万4千人の鎌倉市民の、赤ちゃんから年配、ウルトラ高齢者もいるという訳です。物事には限界というのがあるのです。ですからその辺の見極めを誰がするかというと、一応民主主義ですから、やはりその部署を任されている、議会とかあるいは行政組織がどこかで経過を踏まえた上でより良い判断をしなければいけません。それで津波云々というところまでありましたが、これは鎌倉全員は助かりませんよ、簡単に、マンガっぽく言うと。本当に14m来た時に、15mの高さ制限の建物や、今あるものはいじれないということになってしまっていますから、17万人にダンプトラックの中のゴムチューブのきついやつでも配らなければ、それに掴まってカナダまで流れてくって私はよく言うんですけどね。ですからどこかでやはり覚悟しないと見極めきれないですよ、議論していると。ですから、より良いものを決断するのは、何かというと民主主義ですよ。その辺に悩ましいところがあるのですが、ここまで十何回やってきたことも非常に貴重な場面だったと思いますし、それをできるだけ正確に、その判断セクションに出して、判断セクション同士の議論が私は聞きたいですよ。私ら口出さないから。加藤さん等とも最近では派閥横断的に、よく各部局の考え方なども庁内的にも掴み取りながらそれぞれのセクションが判断されてるようにはなっていますが、まだまだ至らないことがたくさんあります。そういった部署にこういった市民の声をサポートして出してやって。多分出てきますよ、出てきて一回しゃべって聞かせてくれと。庁内議論をむしろ私は聞きたいですよ、リアルにと、これも感想ですけど。

参加者：今の方のお話にもあったように、17万人もいるのに、一遍に一つの情報を流すというのは、今の世の中でもそう簡単ではないと思うので、だから逆に言うと地道にやっていくしかないと思います。ちょっと手前味噌で申し訳ない、宣伝みたいになってしまうのですが、私はあるまちづく

第13回ワークショップ議事録

り団体をやっていて、津波のシンポジウムを今年継続的にやっています。それは各地区の公民館とか公会堂に何十人という本当に少ないレベルで集まってもらいのを毎月やっていて、明日最後の報告会ということで、御成小学校で300人くらい来ていただいてやるつもりなのですが、町内会レベルだと皆さん結構まとまっていたいて、大勢来なくても良いですからと言ってやると結構集まってもらえます。だから数をこなすしかないと思います。小さい集まりをたくさんやる、という感じで、この漁港の話の報告しながら意見を聴取するというのを地道に続けていただきたいと思いました。

参加者：一つ提案ですが。本当に地味にやるのだったら、鎌倉市の広報紙の中に一セクション、漁港、これからどういう名称になるか分からないですが、小さいコーナーを設けて、そこに例えば今週ミーティングがあつてこういう話になってこういう結論出ましたとか、詳細はこのウェブサイトを見てくださいとか、広報の中にセクションを作って毎回そこに載せるのが一番到達する対象の人は多いのではないですか。それかもうポスティングですよ、やる度に誰か人を雇って郵便受けに入れていくという。

参加者：ちょっと本筋から離れてしまうかもしれないので、申し訳ない、恐縮なのですが、さっき話しかけたのですが、このWSの扱ってどうなるんだろうかというのは、ちょっと考えるところがあります。みんな知っているかどうか分からないですが、実はここ数か月の間で状況が変わってしまっていますよね。言いたいことは、何十年間この話をしていると言いながらも、市民の話を聞いたことが無い、で、これが最初の回なので、これ以外に市民の意見を聞いたということが全く無いです。別にこれ私が言ったことではなくて市役所がそう言っているのです、そういう位置づけな訳ですよ。個々の思惑の中では当然こんなところで結論が出る訳は無く、色々な議論をやっていくうちに段々色々な面も含めて、集約されていって一つの意見ができるのだなと思っておりました。この会は形を変えて継続ですね。私の頭の中では去年ぐらいでは、これは多分次の基本計画、中期実施計画を変える、3年後ぐらいの話だろうと、3年ぐらいあれば何とかなるのかなと思っていました。ところが、市役所の方は良く知っていると思いますが、急ぎよ次の、市の総合計画を前倒しで変えることになりましたよね。これを来年中に決めるということは、もう案が、早いものは今月末から春ぐらいまでに出すと言っているとすれば、その間に反映される市民の意見はこれしかないんですよ。多分時限的に良くも悪くも。だから議論を延長するのも必要だと思うの

第13回ワークショップ議事録

ですが、それって6年間の行政計画の中に入らないのですよ。そうすると、私はこのWS当初はそんなに必要な成果って出る訳はない、と思っていたのですが、これだと、根底にあるのはとにかく何か早く決着付けたいのです。これに出てくるような問題点というのは、第1次漁対協の中でも、何十年前に言っていたこととまったく同じことを言っているんです。つまり、何十年間も何も進んでいない。だから何か前進させたいのですが、急にこの数か月の間に急転直下になったので、それを行政計画に反映させる時間が無くなっているのではないですか、と思っています。だからこのWSの意見、唯一のこの問題についての市民の意見を、私がする訳ではないので、ご担当部課とすればどうアピールされる気なのかというのがすごくあります。なぜかというと、市役所と漁業者中心でおやりになった、色々意見ありましたよね、造るとしたら漁対協で出た一つの結論と、これを結論と言うのかどうかは知りませんが、唯一やった市民から出た意見と、色々な意味で全然違う訳ですよ。これをどうやって上げるのだろうと、次の基本計画の素案の中に、で、結論じゃないと。それを私は今すごく悩んでいて、確かに行政計画となると私が口を出す話じゃないので、精々パブリックコメントで意見をするぐらいしかできないですから。だから担当部局はどうするのだろうと、WSのこの成果を、というのはすごくあります。それが皆さんにぜひ考えていただきたい問題提起その1です。

それで問題提起その2としては、あまりこれも言いたくなかったのですが、すごく気になっていることがあります。最終的に漁港を造るという話になったとしたら、ただ相当年数掛かるでしょう。恐らく、どんなに短くても10年20年掛かるでしょう。すごく引っ掛かっているのは、長々しい話で恐縮なのですが、元々水産業協同組合法があって、正会員で20人を下回ると解散しなくてはならないという法律がありますよね。事務局は詳しいと思いますが。そんなに急ぐ話じゃないと思ったから、気にしていなかったのですが、私の知る限り2年ぐらい前の情報で、確か正会員で26人か27人といった記憶があったので、その後増えた人も確かにいる中、減った人もいるなどなって、今何人でしょうかという質問をしているのですが、まだ質問の回答を頂いていませんが、多分20人ぐらいでしょうと想像しています。これは、やっているうちにとか、造ることが決まってからとか、もっと最悪なのは、この後誰か資料を配ってくれましたが、造ってから解散してしまったら、どうなるのだろうと思っています。だから皆さん共通の話として、鎌倉の漁業を守る、ブラ

第13回ワークショップ議事録

ンド化する、の前に、まず確実に将来に亘って20人以上漁業者が、正会員の方がいないといけない訳ですよ。本当の意味で喫緊の課題は漁業者の、正会員の数を増やすことではないかと思うのです。申し訳ないのですけど。漁港は必要なツールと言いますが、そうってから、待ってからやっていたら、やっているうちに無くなってしまわないかと、ちょっと意地悪なことを言って恐縮ですけど。今増やすというか守らないと、それこそ大変な無駄になりますよね。そこのビジョンが。かくなる上は、後、来年中に次の基本計画を作るのだからというのであれば、ものすごく更に急ぐ話になってしまったなと僕は思っています。ここで何を議論しようという訳ではないですが、最後に問題提起というのか、雑感というのか、させていただきましたが、ぜひともそのへんを盛り込んでですね、私の意見はもう、担当部局にお任せするしか基本的にはないのですが、しばらくは。私としてはそれはぜひ、重たいバトンを受け取ってほしいなと思うのですが。

事務局：今の方が気にされている1点目の鎌倉市の総合計画の基本計画、次期基本計画と呼んでいます。平成26年度から始まります。その改訂作業が今、ちょうど始まったところで、今、庁内関係部局を中心に、百人会議が出た時みたいに、部門別の部会を立ち上げて、そこで平成26年以降の次期基本計画に乗せる各部門別の方針であるとか、施策の目標であるとか、そういったものの見直しをしています。これは後でお話ししようと思ったのですが、今の方のおっしゃった次期基本計画の中にこのWSがどのように反映されていくかというのはまだ白紙です。これから各課で、まず各課の課題で、どうするかというのを持ち寄って、それから部会、更にはもっと上の部長クラスの中で決めていく。最終的には議会の承認という作業があります。その中に実は今回いただいたこのWSの成果というのは、これはまだ個人的で、誰にも上司にも相談もしていませんが、参考になる意見が大変ありますので、今までやってきた、例えば水産業の振興のための施策、具体的にいくつかありますが、新たに加えるものがあるのかなと、感じております。ですからそれは市の内部の作業の中でも今回のWSの成果というのは十分に活用させていただきたい、というように考えています。

先ほどの水産業協同組合法というのがありますが、それは確かに20人を下回ってしまうと解散もしなければいけないと。神奈川県漁協さんも30近くありますが、そういう危機に瀕している漁協があるのは確かです。それを救済するために、これはどこの県もそうなのですが、例え

第13回ワークショップ議事録

ばそういう組合員が20人を下回っている組合の受け皿と言いますか、そういうものを県で別の組合を立ち上げて、そういう少ないところは、そういうところに合併してなんとか存続をしていこうというような救済措置はとられています。ただし、鎌倉の漁協さんの方、先ほど20人台というお話でしたが、30人台はいるかと思えます。若い人もこの間ずらっと並んでいましたが、たくさんいらっしゃいますし、後継者の方も確保できているのではないかと思いますので、それは組合さんの方で十分意識しながらやってらっしゃると思いますので、しばらくは頑張っていただけというように私は思っています。

参加者：課長の言った後ですが、組合員は58名です。その中の正組合員は30名。正組合員というのは90日以上働いている方です。その中で今日も来ています。若い人はいないのではないかと、今日、こちらから見た左側の人は皆後継者で、漁をやっています。毎日のように出ています。それで、今、反対だ、どうだ、こうだと言っている人は坂ノ下だけしか見ていない人が主だと思うんです。材木座にもいます。

参加者：違います。誤解です。

参加者：人の意見を聞いてから言ってください。手を挙げてからね。そういうふうにやっている中で、無くなっちゃうだの、どうだ、こうだのではなくて、育っています、ということをお知らせいたします。

参加者：正会員は30人ということですね。

参加者：正会員は組合員ということですか。組合員は60名います。その中で90日以上働いているのは30名と。

参加者：解散する、しないの話は、90日以上120日以内で、過去組合で決めた就業日数を越えている人を正会員と呼んでいて、正会員数が20人未満になった時には解散、という規定なので、そういうおっしゃる意味合いでの正会員は30人ということですね。

参加者：正組合員とすれば。会員というと60名います。その中でも90日以上漁をやっている人もいらっしゃるってことです。

参加者：私は法に基づく、正組合員数というのが30名であると。

参加者：それで1年に1回、審査委員会というのがあり、漁業者の場に公益を代表する方と、学識経験者という方が入って、それで審査をしています。

参加者：30人というそういう数字だけが知りたかったので、何人いるのだろうかという。

参加者：前の前の方が先ほどちょっと大事なポイントを言われて、課長が答弁されてらっしゃいますが、平成26年度を初年度とするその次期基本計画

第13回ワークショップ議事録

云々、これはこの春一応提案協議の形で監査法人のトーマツが総合コンサルテーションを受けて経営企画まで突っ込んでくるので、その中間の過程だと思っています。3月か4月に発注したものですから、今月の29日に審議委員会でお集まりいただいて、行政が作ったペーパーについて討議がありますよ。3時から5時までの日程でありますね。それは12月の本会議で多少は今後のことに触れる場面があるので、そういうスケジューリングだと思うのですが、その中で現在WSでやってきたことの位置づけがどのように置かれているのか、そして今度の総合計画でまた30年という馬鹿みたいに長ったらしいものを作ってこれで変えない、みたいなことをやるから、これだけ変化が激しい時代で鎌倉市がどんどんおかしなことをきたしていると、ということで、その辺は多分今度からは3年か5年のローリングシステムでまず全部見直すというようになっていけば良いなと思って、私は気にしているのですが、その辺で今度決まってしまう中間報告かな、なんかの位置づけはどこまでどうなのですか。お話しただけないかもしれませんが。

事務局：私もまだ詳しくスケジューリングが頭に入っていないのですが、確かにおっしゃるとおりに、まだ課の段階で揉んでくれという段階なのですね。12月議会の報告はこんな形で今やっています、という報告ぐらいしかできないのではないかな、と私は思っています。その中で今、各課で言われているのは、自分のところの総合計画での位置づけ、方針これについてどうですかと、確かに、コンサルが入って、ヒアリングとか受けています。そこは取りまとめた原案を、私どもがこうじゃない、ああじゃないと注文をつけるのですが、その時点ではまだWSの方向性というのは出ていない段階でしたので、それを私どもの方で手を入れる段階、というようになっています。すぐに年内にコンクリートとなってしまう訳ではないので、先ほどおっしゃたように26年度からの次期基本計画の話にもなってくるかと思しますので、長期的には結構大幅に見直したいなど、個人的には思っています。後の4年間、次期基本計画の前期、これにどんなものを盛り込んでいくかというのは慎重に考えていきたいと思っています。

参加者：課長に質問があります。9月議会で市議会議員が市長に質問しました。鎌倉漁港について実施計画にまで載せられているが、これは市長がトーンダウンして進んでいない、これをどうするのか、という質問です。あなたは聞かれたと思います。本議会です、定例会です。その時の市長の答えは今、皆さんもパソコンで録音でも聞けますよ。「着々と進めていき

第13回ワークショップ議事録

いと思います」と。この辺のところの質問を、私は今、出してありますが、あなたは庁内会議で、市長が議会で市議会議員に答えられたあの返事はどういうことなのでしょうかというように質問していただきたい。プロセスとして。

参加者：「着々」の中身ね。

参加者：そうです、具体的に。「着々」じゃ分からない。担当課として聞いていただきたい。というよりあなたはそれをどういうふうに理解しているのですか。

事務局：このWSが終わった後、市長を含めて、今後どう進めていくかというのは協議しますが、あの時確か市長が答えられていたのは、当面の支援の話をしていました。漁港について、すぐにはできないかもしれないが、それは着実にというか粛々と、というか、やっていくと。これについては並行して検討していきたい、という話だったと思います。それをどのぐらいのレベルで、または総合計画の中に位置づけるかというのは。

参加者：はっきりしているのは、ノーと言わなかったってこと。

事務局：そうですね。そのとおりです。これから皆様とも、この後これ、いただいた後報告することになっています。

参加者：では、質問が出たと言ってくださいよ。

参加者：ちゃんと残っていますよ。

参加者：先ほどちょっと自分の頭の中のスケジュール感が変わったというのはこの話にも実はありまして、私は元々3年ぐらいかかるだろうなと思っていて、議員の選挙もあるし、市長の選挙もあるし、その中に色々な人の色々な思いがあって、そんな形で行政サイドも漁港が段々見えてくるのかという。ところが現実には来年議員選挙もあるし、市長選挙もあるし、おまけに総合計画をやるというということは、誰がやるか分からないところで一気に全部変わるのでですね。それを私はすごく危惧しています。おっしゃる通り普通の市民ですから、総合計画の基本計画は大事だと思っているので、それは非常に重要なポイントだなと思っています。

一方で基本計画というのは鎌倉市全体の話をしていきますから、決して漁港の話をしている訳ではない、漁業の話だけをしている訳ではないですから、多分全体の中で何分も話をしていないでしょう。恐らく、予想ですけどね。ということは、担当部局、しかも人が変わるかもしれないという中においては、あげられた、こんなもので、というのを前提に考えて決められるでしょうから、ここから先、非常に担当部局が、どのようにこれを、例えばこのWSの意見についてどのようにアピールするつ

第13回ワークショップ議事録

もりかが非常に重要な部分があるなと思っているので、そこはぜひ、私の想いとすれば大事に受け止めてほしいなというのがお願いの一番重要な向きである訳です。それは今の話だと、6年間はそれで行くという話なので。ただ、確かに今現在走っている、現在の基本計画は、確かに色々な審議会だ、なんだというプロセスを経て辿り着いている結論は「漁港の整備を検討する」とほぼ1行なのですよね。検討すると言っているのだから検討するのだよね、と、別にその通りのことをやっている訳で、不満は無いのですが、果たしてその言葉を、良くも悪くも横並びにはできないのではないか、という私は予想、印象があって、持っている情報とか、初めて出た市民の意見が多少なりとも違うのであれば、横並びの意見にはならないだろう、それはどうするんだろう、というのが先ほど差し上げた問題提起の部分です。ですからぜひともよろしく願います。

F T : それではちょっと整理しますが、一つはこういったWSの成果なりなんなりを、市の総合計画にどういう風に反映していくのかということに、皆さんとても関心を持っていらっしゃる。それは市として受け止めていただきたいと思います。それから先ほど、少し前の話では公開をどうやっていくかということについて、色々な工夫があるだろうから多面的に展開して、かつ地道にやっていくべきだ、というご意見がありました。このことについては、今、市としては何か具体的な案とかがありますか。

事務局 : 地道に町内会単位というやり方もあるかとは思いますが、物理的に中々回り切れないというのはあります。考えられるのは、例えばツイッター等でこういう会議があって、こういう話がありました、ということを発信すれば、かなりの方が見ていただける可能性があり、拡がっていくのかなというのがあります。うちもツイッターをやっていますので、ぜひそういうのは入れることができるのかなと。それから、先ほど広報で例えばこういうことやっています、見てくださいというだけでも、市民の方の目に留まるかなと思ったので、それは今回、このWSが一回区切りがつきますので、こういうようなことをやりました、ということの一つ一つご案内していけたら良いなと思っています。

F T : イベントだとか、今の所アクティブなものはないですか。

事務局 : うちのイベントではないですが、例えば鎌倉漁協さんがやっていらっしゃる朝市とか、月1回やっていますけど、ああいう場なども活用したいなと思っています。3世代交流などそういった海の関係するイベントなどはいくつかありますので、そういう時は活用していきたいなと思います。

第13回ワークショップ議事録

この後フォーラムやったら良いのではないか、この発表会やったら良いのではないか、についてはちょっと今すぐ、具体的にいつやりますとは言えませんが、持ち帰ってそれは検討していきたいと思っています。

参加者：ちょっと私、申し上げたいことが一つあるのですが、もちろんそういう手段とか、さっき私も出しましたが、場の話もすごく重要なのですが、何をメッセージするか、何をそういう場で伝えるか、あるいは逆に何が聞きたいのか、何を市民から聞きたいのか、その目的のところがとても重要だと思います。前の方のご指摘は私はそうだなとすごく思っていて、つまり、この場であれば、こういう場がありましたということ、単純にメッセージするのと、こういう結論なり、こういうメッセージがありましたというように伝えるのとではだいぶ違うと思うのですよ。私が繰り返し申し上げたいのは、恐らくハードウェアで特に港というものをすぐに建設するのは無理だろうということがこの理念の結論だと思うのですね。一方でソフトウェアの活動は特にさっき出た後継者にしたって、30人よりもっと増えた方が良いでしょうね。若い人たちの中から漁業者になろうとか、あるいは少なくとも応援しようとか、あるいは少なくともこの近隣の魚をもっと食べようとか、そういう人たちがどんどん増えていくような活動をするということに関しては、多分誰も反対していない気がします。ですから総合計画にしても、港を建設しますという、検討しますということがずっと歩いていくのではなくて、ここでハードウェアというのはすぐには無理だが、そういうものの建設に向けたというか、ソフトウェアの市民理解を得たり、後継者を作っていく、流通を変えていく、そういう活動をこの何年間で注力すべきだと、そういう予算をつけていくべきだというぐらいまでのところに、もしコンセンサスが得られるのだったら、踏み込むべきなのではないかと思いますし、それが無い限りは、先ほどもおっしゃっていたように何年経ってもハードの話になるとそれは無理だね、ということの繰り返しになりますし、そういうソフトの市民理解を得たり、流通を変えていくという活動が、いつまでも盛んにならないのではないのかなというように思います。

参加者：ちょっと他の地区の人も随分来ていると思いますが、私は御成町ですからすぐそこです。倉屋敷という自治会で私のところは10班と11班が日常的な連絡ネットなのですね。で、回覧板が来るのですよ。皆さんのところに回覧版ってあるのですか。（「来る」「ある」の発言多数）皆さん回覧板見ますか。見たことないという人。（参加者：回覧板でこのWSのことも1度か2度回りましたね）（参加者：出ましたね）メッセージは新

第13回ワークショップ議事録

聞の見出しじゃないですけどヘッドライン的に3行くらいで良いと私は思ったんです。それは詳しいことをお聞きになりたければ、こうしてくださいとガイドすれば、後は市民が無関心か関心か、真剣か不真面目か、どうでも良いと思っているかのレベルですから、そこまで斟酌することは無いと私は思うのですよ。回覧板って良いと思います。あと、老人組織も、私は仕方がないから入っていますが、4千人ぐらいいるとのことですよ。ね。「みらいふる」の方たちがそれ専門にやっていますし、割とあれは通知がいきやすいネットワークだと思います。「みらいふる」って4千何百人いるっていうのですよね。(参加者：5千人)5千人ですか、増えましたね。

F T : 公開周知の仕方については色々あります。それから漁業者さんに向けて、市民を巻き込んだイベントをもう少しアクティブに活性化してもらえないかというご意見もたくさんありましたが、漁業者の方、いかがでしょうか、その展開の可能性は。

漁業者 : 先ほど言われたように「みらいふる鎌倉」という老人会の会長さんから3世代交流というのをしたいということで、2回ほど打合せ会をした時に、つみれ汁を今の子供さんは食べたことが無いから、骨が弱いのではないかなどという話が出て、そういう話から、つみれ汁にしたというのは、小魚を使って味噌汁にして食べようということで。お年寄りの人のアイデアでつみれ汁をやって、それだけじゃ何だから、せっかく集まってもらったのだから、海の漁業の様子をお話して、交流を図ったということです。そういうイベントがあればできる範囲のことはしようと思っています。

もう一つ、障害のある方に仕事が無いというお話を頂いて、何か第1次産業として仕事はできないかということで、来年度から養殖ワカメの干す手伝いをしてもらうようなことを今計画しているところです。

F T : 地元の人たちと漁業者さんの間で色々今後どうしたら良いかという、相談会や勉強会ができるの良いですね。他に何か振り返ってご意見ございますか。

参加者 : これ、今日でとりあえずおしまいですか。

F T : そうです。

参加者 : なんだ、じゃ今日ぐらいつみれ汁かブイヤベースぐらいは。

F T : ここはお茶も出ない会ですからね。

参加者 : いや交通問題のWS時、最後はね、私が500円ずつ手持ちでも良いから缶ビールくらい飲んで打ち上げしようよって言ったら、図書券くれまし

第13回ワークショップ議事録

たよ。上等だと思いましたよ。それなら来る気になるかなって。

F T : 頂いた意見を基にして、この報告書の改訂作業を行います。この改訂作業とは別に様々な宿題、展望についてご意見をいただきましたので、これは市の方で少し整理をしていただいで、持ち帰ってできることはできるということを進めていくことになります。

今後この報告書をどのように編集し、どのように皆さんに確認していただくか、市として何か考えお持ちではないですか。

事務局 : WSを開くという形では今日で最後だと思いますので、今日頂いた意見を1回取りまとめまして、郵送等で送らせていただいで、メール、ファックス、電話、または直接来ていただいで結構ですが、皆さんとやり取りをして、年内には編集を経て公表していきたいと思っています。皆さんにまたご迷惑をかけてしまいますが、この本編、それから議事録等、ご覧いただきまして、今日この場で気が付かなかったこと、ご意見、受け付けますので、今月いっぱい意見があれば、市の方にお寄せていただいで、その間、今日頂いた意見についてはどんどん改訂作業を進めてまいりますので、でき次第、11月末でしめたところで、でき上がり次第皆さんの所にお送りして、見ていただき、それで完成と、それから配布なり報告なりをしていきたい、そのように考えております。

F T : できれば報告書に関する意見だけではなくて、色々な展望が出ましたので、それについて書ける方で結構ですでお書きいただき、市としては、お送りする時に、こう考えている、というようなメッセージをお返しいただければありがたいと思っています。よろしく願いいたします。

プログラムでは最後に感想ということになっていますが、先ほど感想を述べられた方がたくさんいらっしゃいましたので、特におっしゃりたいことがあれば伺いたいと思います。いかがでしょうか。

第2部

③ 今回のワークショップに参加してご感想

参加者 : 私が思うに、漁港がすぐにできない、皆さん色々開発したい人がいたり、総合計画が何年もあるというのもわかるのですが、普通に自分がいつも海に行って疑問に思うのは、今漁業者の小屋に台風が来て被害に遭ったのをどうするのという。WSで漁業者は、私たちはただ遊んでいるだけと誤解されるかもしれないですが、水産業を応援したいという気持ちは持っているんですよ。今危ないという状況をWSでは何も考えないの、

第13回ワークショップ議事録

というふうに思ってしまうのです。漁港に反対したから、次に被害があったら心が痛むのですよね。私たちが反対して漁業者が後片付けしたりするのが自分たちのせいかな、とあってしまったりするから。何か改善する方法を、まだまだ長い、色々な事をしていかなければいけない、ビジョンを考えたり、ソフトが先、とかわかるのですが、今、改善した方が良いという所とか、危険だという所を、じゃあ何もしないの、とあってしまうので、そのところを今後どうするのかという検討会は無いですか。

事務局：これは確かメッセージの2番目にあっただと思うのですが、「行政が早急に具体的対策を実施することが必要である。」これはうちに対していただいた命題だと思っています。これについては、関係するところと今後どうしたら良いか調整します。正直あそこは市が管理している海岸じゃないので中々手が付けられないので県に行って、海岸には今仮設しか建てられませんが、どうしたらできるのかという相談であるとか、そういうことをしていかなければならないと思っています。何をしたら良いかというご意見はいただいているので、実際に実現していくというのはうちの役割だとは思っています。

参加者：今、私たちも養浜事業のことを色々やっていて、その時は一時的に養浜をして砂じゃないですよ、この間入れられたのは。川原の大きな石で、シルトといって、泥でもなければ砂でもないような海に全く合わない素材のものをたくさん入れられてしまって、一時的には養浜して砂浜が戻ったね、と思わせておいて、次に何かあった時はもう田んぼのような状態で、コンクリートみたいな形で固まって、今度は岩崖のような状態になっている訳です。もちろん漁業者の浜小屋を守るために養浜もしていると思うので、県の方の養浜事業というのも試行錯誤であって、すごく怖いなというのをこの間実感したばかりなので、なんとかその辺、横のつながりを持って、鎌倉の湾を考えてもらいたいと思っています。

事務局：その話も承知しております。うちの方にも問い合わせがありまして、県の藤沢土木事務所の汐見台庁舎の方にやっていたいでいて、良い砂があれば良いのですが、漁業者の話を見ると、コンクリートみたいな、瓦礫みたいなものが入ったりするのは問題外ですが、やはり軽い砂だとすぐ持ってかれてしまうので、ある程度粒径が大きい方が良いということがあります。実際、砂浜を歩いている方にとってみたら、サラサラの砂が良いのかもしれないですが、サラサラなのはすぐに飛んでしまったりとか、流れてしまったりとかがあって、浜小屋の周りにはなるべくそういう、漁業者

第13回ワークショップ議事録

が良いよというような物を使ってほしいという要望で、いきなり砂を持ってきて入れるのではなくて、一応漁業者と藤沢土木事務所でどんなものが良いかということは、その仲介として市も入ってやっていますので。この間入れてしまったものは苦情が出て仕方がないものだったようなので、それは県に言ってあります。だから今度入れる時は事前に調整を図ってやっていきたいと考えています。

参加者：すいません、最後にもう1回お話ししたいと思うことがあります。「現地調査後に寄せられたご意見」にまとめていますが、私なりに2年近くかなりの回数をかけてきた結論とは、多分ハードウェアを早急に整備するのは難しいと、だがソフトの活動をしっかりして市民理解を得るということをするべきだ、というところが一言でいうとこのWSの成果ではないかと思っています。ぜひ考えなければいけないのは、市民理解って一体何なのだ、どこまで行ったら理解が得られるのだ、ということです。これがもし、そのハードを進めるにしても、大切な要素だと思うんですよ。例えばここに書きましたが、浜売りの来場者数が何人になったとか、何千人になったとか、さっきの3世代交流会のようなものが何回開かれて実に何万人になったのか。また、鎌倉の子供たちの2人に1人は参加したとか、あるいはもっと進むと、こういう豊かな食文化に触れてそれを残したい、残すためにインフラの整備でこれぐらいの税金を使うのは良いか、という問いに対して、市民の半分がそれだったら良いじゃないか、この文化を残すのだったら良いじゃないかとなったら、多分大手を振って基本計画なり行政計画にも反映できると思うのですよね。せっかく今から中長期の計画を立てて、5年10年、もっというと20年の視野で計画を立てられるのであれば、そういうスコープをきちんと持った方が良いと思うのですよ。例えば5年後に市民のこれぐらいの人がそういう食文化を体験していて、ネット調査でこれぐらいのパーセンテージ、これぐらいの人数はそれに理解を示している状態を作ろうとか、そこをはっきり、特に行政の方と漁業者の方が、しっかりそこのプロセスとかビジョンをつくっていかないと、多分本当に何回集まっても同じになってしまうと思うのですね。そこをぜひここを出発に考えられたら良いのではないかと、というのが意見です。

参加者：もう時間も少ないので、漁協の思いとしてのお願いということで一言いわせていただきたいと思います。今話を聞いて、漁協としては漁港が必要ですが、皆さんの話を聞くと、漁港建設が長くなりそうだったら、毎年来る台風の被害をなくすために、安心して安全な何かしらの施設を願

第13回ワークショップ議事録

いするということで、よろしく申し上げます。

参加者：感想は最後にとということだったので、ちょっと言わせていただきます。

先ほどから色々な意見が出ていましたが、一番思うのは子供たちの世代に、負担に、無駄になるようなものは残したくない、というのがやはり一番です。今良くも悪くも上の世代を下の世代が支えるというような形になっています。皆さんもそうですし、自分たちもまた下の世代に支えてもらうというようになっていきますから、負担する子供たちの世代に説明ができるようなものを作っていただきたい。これは別に、漁港に限らず何でもそうだと思います。例えば先ほど、ちょっとびっくりしたのですが、平塚の例が出てきましたが、ちょっとこの資料しかないのですが、判断できないのですが、こんなのは無駄だと思うし、こういうのは子供たちの世代に説明がつかないと思うのですね。なので、とにかく子供たちに、そうだよね、これは必要だよね、自分たちで負担してやっていくよ、と思ってもらえるようなものを、説明できるものを作ってほしいというのがやはり一番です。

今、漁業者の方からお話がありましたが、やはり直近の問題は早くやらないと、待っていても何も解決しないと思います。せつかく、とりあえず、まずは漁港ではなく、三つの提案があったと思うので、将来の話だとか、今やらなければいけないこと、それを早く進めていただきたい。

今後なのですが、先ほどお話があった町内会単位みたいな、多分それが一番市民の色々な人の意見をまとめられる方法だという気がします。確かに広報紙とかそういうのでばらまくのは良いのですが、一方通行かなと思います。そういう会で話して、何もなかったら何もないかもしれませんが、意見を集めるのは一番誰もが納得する方法じゃないかと思います。ここだと市民といっても一部の人間だろ、という話も出ていたので。本当はそれが良いのではないかと思っていたのですが、先ほどのお話だと、どうやら市の計画に反映するにはもう時間が無いみたいなことだったと思うので、やるならば、唯一、この市民とか、漁業者の方とか色々な立場の方が対等に話をしたのが、このWSになるので、これを市へのお願い、というか要望ですが、参考とかではなくて反映させていただきたいです。これが唯一のものとなってしまった訳ですね、もし間に合わないのであれば、ここにある訳ですから、これは絶対に反映させていただきたいです。でなければこの長い間やって来た意味が、参考ですねと言われてしまうと、私たちは何だったのだろうと思うので。間に合わないのだったら、間に合わないのはおかしいと思うのですが、本当はもっと色々やるべきだと思うのですが、間に合わないのだったら、これは

第13回ワークショップ議事録

絶対に反映させてください、というのを最後をお願いして終わりたいと思います。

参加者：今、ちょっと話を聞いていて、安全対策はすぐにやらなくてはならないと思いました。ぱっと思ったのですが、毎年台風が来るたびに何かやってというのは、毎回そういうことをちまちま繰り返すよりは、耐久性の高い、永続的な対策を最初にやった方が長期的には、実はそっちの方が費用が掛からなくて良いのかもしれないなというようにちょっと思いました。

あと、これを反映させるというご意見がありました。もしこれを反映させる、そもそもこれが反映させるものとわかっていれば、もうちょっと議論も具体的で、例えばベースがあって、論点の根拠があって、というようなものにしていただけないかと思いました。例えばこの意見はそんな本当に深い裏付けがあって、という訳でもなさそうだし、ある意味思い付きの意見を言って、で、まとめて終わり、というようなものなので、これが市の行政に本当に反映されてしまって良いかなとは若干思います。それだったらもっと深い、ちゃんと裏付けのある意見をまとめるべきだったのではないかなと私は思います。

参加者：そうですね。ちょっと言葉は適切じゃないかもしれませんが、今回事務局がまとめたものが、行政のあるレベルに、こういうことでしたとレポートが上がっていくと、上の人は悪知恵がありますからね、逆手に取って、そこを汲んだからこういうことだよ、というような論理のすり替えのようなことが必ず出てきます。それは今日まで議論してきたことほとんど反映されていない、意見はわかったと、よくある行政の管理職のセリフですよ。「市民の皆さん確かに様々に色々なことを言ってこられるのだ」と、「だから今日あなたがおっしゃられている事も私は賛成ですが…」でボツです。というのがあなたの言ったことと少し重なるのですが。悪口を言っている訳ではないのですがね。

F T：最終的に絶望的な話になってきましたね。

参加者：だから、事務局の出し方によって、実はこの先はずいぶん変わるんですよ。そこは私が口を出せない世界が確かにあるので、原案部分はですね。だからそこをなんとか埋めてほしいというところです。

参加者：繋がる糸を、どこかできちんとね。

参加者：一方的に私の意見が届いてほしいと言っているのではなくて、確かに混沌としたこの情報、でも何がしか事務局としてはまとめてあげなければいけない、と思うのですけどね。そのあげ方でものすごく変わるので。

第13回ワークショップ議事録

参加者：先ほど、私は一言で言うと、ハードじゃなくてソフトだと申し上げましたが、その点について。今の時点ではこれをもとにそういうメッセージを、そういう計画に、ほんと一言で良いですが、反映させようとされているのですか。

参加者：WSに無断では一切やらない、とかね。

事務局：総合計画の中でも、基本的な施策とか、大きな目標があって、それから段々具体的な取り組みがあって、そして個別の計画とある訳です。その中の多分このメッセージは理念的なものと言うのでしょうか、抽象的な表現が出てくるので、それは十分取り入れていける、細かい議論をしなくても、こういう方向性で原局としてご意見をいただいてやっていきたいということは十分にアピールできる。逆に言えば、我々がどうしようかということところに、何の市民意見もない中で作るよりも、一つの裏付けというものにはなると思います。そういう意味では、今回初めてやった取組でこれだけの意見、2年かけてやらせていただいたことは決して無駄にはしたくないと思っていますから、どこまでこれを上の方に理解していただくか、という努力はしてまいりたいと思っていますし、なるべく皆さんの今言われたことについても、伝えてぜひやっていきたいと思っていますので、あまり悲観的にならないでいただいて、何とか担当課の方でも努力していきたいと。今の段階では絶対できますとは言えませんが、こういう形で担当課の方としては積極的にPRしていきたいと思っています。

F T：課長が直接の担当である限りはね。一緒に苦しんできましたから。

事務局：我々の総合計画策定では、ちょうどこの部会に所属しますので、その中で、最初は大きな方向性というか、目標を作り直しますので、その中で先ほど言ってもらったソフトの面という事について具体的に今日お話を聞いて整理をして、どのように入れたら良いかと、今までそういった視点での括りが無かったので、新しい一つの方向性として良いのではないかなと。今の第6次産業化とかそういうものにも合致している部分もありますから、うけるのではないかと個人的にはちょっと考えました。だから検討したいと思っています。

参加者：今回おしまいということで、結局、課長がどう反映させてくれるか、そこ次第なんだなと思います。だからもう私たちの役目はおしまいだなと。じゃ何ができるかなと今考えていたのですが、WS後にできることはやはり鎌倉の魚を食べることかなと思っています。実はあまり食べてないのですね。シラスはよく使わせてもらっています。三郎丸さん、喜楽丸

第13回ワークショップ議事録

さんにもとても美味しいシラスを食べさせていただいて、最近は気を使って、今日はこっち行ったりとかしています。朝の浜売りも買いたいのですが、ちょっと問題があります。カミさんが、以前に釣り等に行って魚を持ってくると、非常に嫌うのですね、捌くのが大変だから持ってこないでと。カミさんが言うには、最近捌いて味付けしてすぐ調理できるようなものが売っているので、そういうのを鎌倉ではやってほしいなど言っています。私個人としては、強行突破、朝、浜辺に行って自分で調理してちゃんと片付けもして、食べるようにしていきたいと今、思っています。

F T : 時間がまいりましたので、13回最後のWSをこれでしめたいと思います。どうも長らくありがとうございました。

終わりに

④ 事務局より

事務局：では事務局の方からもお礼申し上げたいと思います。13回お付き合いいただきまして、本当にありがとうございました。1回目2回目辺りはかなり紛糾をして、この後どうなるのかと正直思いました。今日最後も、色々な意見をいただきましたが、皆さん、意見は色々お持ちの方がいらっしゃるのですが、それぞれ気を使って話していただいているというのが、最後そのように終わって非常に良かったのかなと思います。ぜひこの13回の成果を無駄にしないように、私どもとしても上の方にもあげて、なるべく実現に向けて、また漁港という漁業者の命題というか、宿願もありますので、それはそれとして並行してやっていきたいと思いますので、また色々な機会に、先ほどフォーラムとか色々なイベントという話もありましたが、そういったことがあった時には、ぜひまたご参加をいただけたらと思います。1年2か月でしょうか、本当にありがとうございました。